

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 19 号 〇●〇

平成 25 年 8 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全小・中学校で共有するため、随時発行しています。第 19 号では、教務園務担当者研修と小中連携推進教員（連携クリエイター）研修についてご報告します。

◆教務園務担当者研修

平成 25 年 7 月 18 日、教務園務担当者研修において、筑波大学の樋口直宏准教授より、施設分離型小中一貫教育の推進について次のようなお話がありました。

〇小学 5 年生～中学 1 年生までをつなげれば小中一貫教育？

小中一貫教育を進める際、小学校低学年の先生方はあまり関わらない、ということが起こりがちです。小中一貫教育では、小学校と中学校の先生方が分担して「子供たちを 9 年間かけて育てる」という意識が何よりも大切です。小学校から中学校へのつなぎのところだけを考えればいいというものではありません。

〇小中一貫教育は目的ではなく手段なのだから、やってもやらなくてもいい？

小中一貫教育は、義務教育としての見通しをもって、自分たちの学校や学区が抱える教育課題を小・中学校が一緒に解決していこうということです。小学校だけ、中学校だけでは十分に取り組めない課題の解決が目的ですから、やらなくてもいい、ということではないと思います。

〇「できること」は「やってみたいこと」ですか

忙しいなか、「無理なくできることをやっけていこう」という言葉がよく聞かれます。しかし、やれることだけをやればいいのかのでしょうか。「できること」は「やってみたいこと」なのでしょうか。「できること」で何を実現したいのでしょうか。

「できることは何か」とばかり考えていると、一体何のためにやっているのだろう、と先に進まなくなる時期がきます。大切なのは「9 年間をかけて何をやろうとしているのか」です。そのうえで「何ができるか」と考えていかなければなりません。

◆小中連携推進教員（連携クリエイター）研修

平成 25 年 8 月 2 日、午前と午後の回あわせて 131 名が参加して、小中連携推進教員（連携クリエイター）研修を実施しました（写真⑥）。研修では、前半に小中一貫教育実践校および小中一貫教育校大泉桜学園の



報告、後半に学習指導連携型グループの協議と分科会（グループ協議）を行いました。

(1)小中一貫教育実践校（旭丘中グループ）の発表

課題改善カリキュラムを作る際は、教科全体を通して作成するより、内容や領域をしぼって作成したほうが、日々の授業や子供の見取りに活かしやすくなります。算数・数学カリキュラムでは、昨年度は分数、今年度は一次関数をとりあげています。

カリキュラムは、小中の教員が一緒に作成していくことが理想的ですが、一緒に作成することが難しい場合は、小学校教員が作成し中学校教員に確認してもらう方法もあります。課題改善カリキュラムを作ることで、教員が9年間を見通した指導を意識できるようになることが大きな成果です。

1中2小合同の研究協議会では、小学校教員からは、児童が自ら考える力をつけさせたいという意見、中学校教員からは、機械的でいいから確実に計算力をつける指導をしてほしいという意見が出ました。小学校と中学校の意識の差がはっきりしたことで、改めて、指導方法や重点の置き方などを考えていく必要性を感じました。

(2)小中一貫教育実践校（石神井南中グループ）の発表

下石神井小と石神井南中では、年度初めに両校の行事予定を併記した小中年間予定表を保護者と教職員全員に配布しています。連携行事は前年度のうちに決めて、年間予定に入れてあります。

小中協力授業の多くは、中学校の定期試験日の午後に行います。国語では演劇部の紙芝居上演や百人一首交流、社会や技術・家庭ではパソコンを活用して食糧自給率の学習をしました。算数や理科、図工では中学校教員による出前授業、音楽では中学生による琴演奏指導、体育では新体カテストの合同実施、外国語活動ではALTによるイントロ学習など、平成14年度以来の実践を精選・修正しながら継続しています。

12年目となる今年度は、家庭学習の充実をめざして、9年間の家庭学習啓発の資料づくりに取り組んでいます。

(3)小中一貫教育実践校（豊玉第二中グループ）の発表

理科の課題改善カリキュラム作成にあたっては、小学校の「物質・エネルギー」と中学校の第一分野に重点を置き、実験観察の結果を整理し思考する学習活動、探究的な学習活動を充実させるカリキュラムを作成しました。算数・数学では、図形領域を重点として、思考力・判断力、表現力を育むために、各学年の学習単元での具体的な手立てをまとめて授業改善を行いました。

小・中学校間の距離があるなか、相互の学校公開・校内研究会の参観を年間計画に織り込み、教育活動に対しての相互理解を深めたことで、「みんなの子供をみんなで育てる」と意識が変わってきました。

今年度は、課題改善カリキュラムの検証と改善を通して、授業改善に生かすとともに、改築後の豊玉第二中学校舎に新設される「小中連携教室」の活用方法を検討し、施設分離型における小中一貫教育プログラムの作成に取り組んでいます。

(4)小中一貫教育実践校（光が丘第一中グループ）の発表

本グループでは、豊かなコミュニケーションをテーマとして研究を進め、小中教員間のコミュニケーションを深めてきました。コミュニケーションが深まると、情報交換や打合せもスムーズに進みます。

国語では、中学生の俳句を小学生が鑑賞して俳句を返礼する作品交流、算数・数学では、中学生が小学生にコンパスの使い方を教える交流学习を行いました。

今年の夏休みには、小学校教員が、中学校の理科教員から「授業で使える、おもしろ科学実験」の実技研修を受けました（写真⑥）。小・中学校の教職員が一緒に研修することで、お互いの理科指導がより良いものになると考えています。



小中合同研修会は、互いの教職員が指導方法を高める場となっています。一方で、小中学生を直接交流させる時間を継続的に確保することには、困難も感じています。イベント的ではない小中一貫教育のあり方を探っているところです。

(5)小中一貫教育校 大泉桜学園の発表

大泉桜学園では、開校1年目には、20人ほどの企画委員会が放課後に集まって懸案事項や職員会議の議案について話し合っていました。2年目以降は、人数を12人に減らし、時間割を調整して、毎週火曜日1校時に会議をもつようにしました。

部活動は小学5年生から参加していますが、①部活動中のケガや事故 ②授業終了後から部活動開始時間までの過ごし方 ③参加させる活動範囲 ④参加させる時期や時間 ⑤部活動参加後の帰宅などの課題がありました。小学生の活動時間は16時から17時としたり、大会前は休みとしたりなどの工夫をしています。

キャリア教育では、低学年では関係ないと考えがちですが、大泉桜学園においては、1年生から9年生まで一貫したキャリア教育を進めています。1年生の国語科で聞く話す、2年生の生活科で1年生との関わり、3年生の社会科で働く人々、と学んでいき、4年生では委員会活動やたてわり班リーダーの活動などを行います。従来からやってきたことも含めて「キャリア教育」であるという意識をもって取り組んでいます。

Ⅱ期（5～7年）の学習では、5・6年生に50分授業や一部教科担任制、期末テストを取り入れたり、中学校籍の国語教員が週1時間、6年生を教える乗り入れ授業を行ったりしています。

学校のきまりもゼロベースから考えました。生活の約束や学習規律も1～4年と5～9年で統一し、きまりをまとめて掲示しています。

避難訓練の方法も、小学生は歩く、中学生は校舎を出たら走る、など違いがありました（写真⑦）。現在は校舎を出たら、1～4年生は最短距離で歩き、5～9年生は



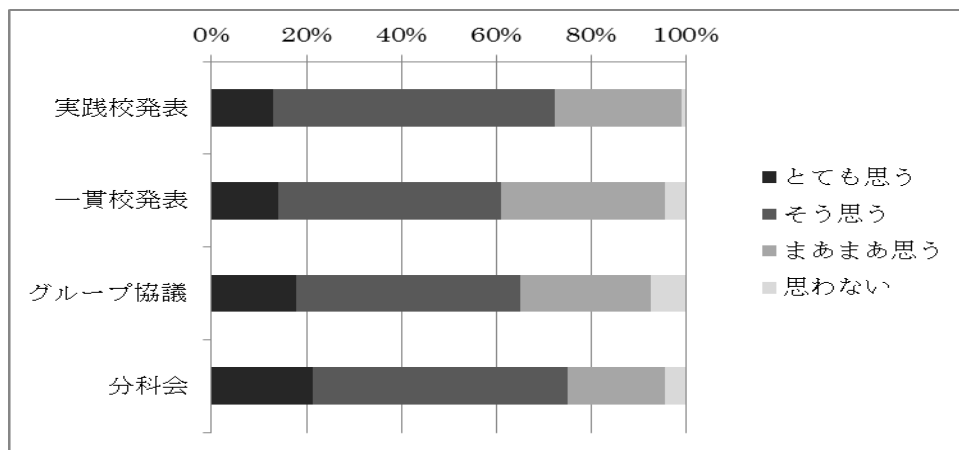
小走りで行くようにしています。

特別活動では、たてわり遠足、たてわり遊び、飯盒炊爨^{ごう さん}、委員会活動、児童・生徒会活動など、多くの異学年集団活動を実施しています。東校舎が1～4年、西校舎が5～9年と分かれるなかで、4年生が大きく成長する一方、6年生がリーダーシップを取れない悩みもあります。中学生からは、委員会や児童・生徒会で5・6年生と一緒に活動する機会が増え、活気は出たけれど分担が難しい、などの声もあります。

今後は、Ⅱ期（5～7年）の教育活動のあり方や小学校最終学年である6年生の教育活動の工夫、系統性をもたせた基礎的・基本的な学習指導方法、言語活動の充実を図る指導計画・評価などについて改善を進めていきたいと考えています。

◆連携クリエイター研修 アンケート結果

「小中一貫教育を進めるうえで、今日の研修を役立てることができると思いますか」の質問に対して、6割以上の方が「とても思う」「そう思う」との回答でした。



研修の感想としては

- ・先進校の工夫をこらした実践から、活かせることを取り入れたい
- ・大泉桜学園のキャリア教育の話が参考になった
- ・学習指導型連携グループの協議時間が短すぎた。なかなか顔を合わせる機会がないので、打合せ日として設定してほしい
- ・分科会では実情を踏まえて悩みを共有できたし、他校の取組もわかった。話し合う時間がもっとほしかった

などの意見が多くありました。今後の連携クリエイター研修への希望としては、

- ・実践校や小中一貫教育校における活動や授業の見学
- ・具体的な実践方法の研修
- ・話し合いの時間を十分に確保してほしい
- ・連携クリエイター・管理職・教務主任などが一同に会する研修が効果的だと思う
- ・小中一貫教育の計画から実践までのマニュアルがあるとよい

などの意見をいただきました。次回の連携クリエイター研修は、12月19日(木)に上石神井小・中学校の乗り入れ授業報告会を予定しています。